

HMG注射用「フェリング」を使用される方へ

ご自身で注射を行う場合は、主治医から方法や取り扱いについて説明を受け、この冊子をよく読んでから注射するようにしてください。



心配なことがあった場合には、薬剤の投与を中断し、直ちに主治医・薬剤師に連絡してください。

注射に必要なもの

注射には下記のものが必要です。注射をはじめる前に不足や誤りがないか、確認してください。

アンプル

バイアルに入った
薬剤を溶かすための
溶解液

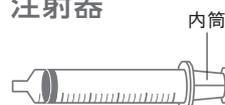


バイアル

乾燥した薬剤



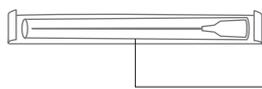
注射器



調整用針(太くて長い方)

アンプルやバイアルから溶解液や薬剤を
吸い上げるための針

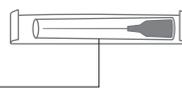
色の針(G)



注射用針(細くて短い方)

薬液を注射するための針

色の針(G)



消毒用アルコール綿

使用済みの針、注射器、アンプル、バイアルを入れる容器(廃棄用容器等)

絆創膏

使用済みの針や注射器、アンプル、バイアルなどの廃棄方法については、各医療機関にご確認ください。

MEMO

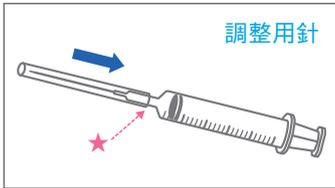
使用済みの針や注射器、アンプル、バイアルなどの廃棄方法、薬剤の保管方法などを記載しておきましょう。

自己注射の手順

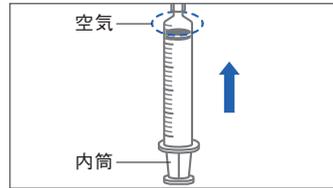
はじめに：手を洗う

石鹸で手を洗ってから、注射の準備をはじめます。

自己注射の手順①：注射器の準備



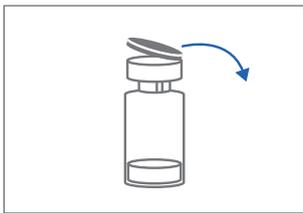
注射器と調整用針を袋から取り出し、針キャップを付けたまま、真っすぐに装着します。



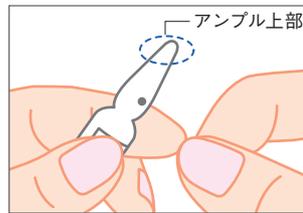
装着したら、内筒が動くか確認し、最後に内筒を押し上げ、空気を抜きます。

❗ 注射器と針を袋から取り出す際や装着の際、両方の接続部分(★印)に触れないように注意してください。

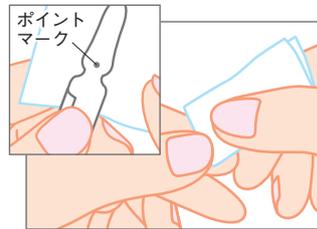
自己注射の手順②：薬剤の準備



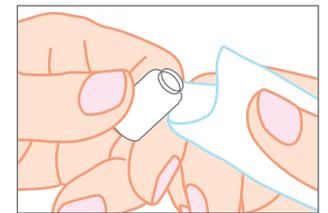
バイアルの蓋を外し、アルコール綿でゴム部分を消毒します。



アンプル上部を指先で軽くはじいて、液を下ろします。



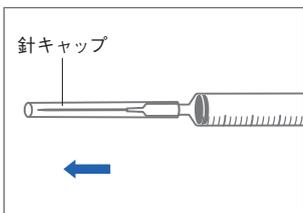
指を切らないようにアルコール綿でアンプルのくびれ部分を覆い、アンプルのポイントマークに親指をあてます。



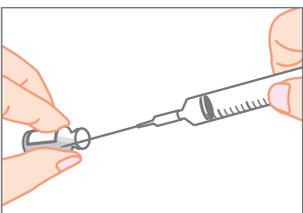
人差し指を後ろに添えて、ポイントマークを押さえたまま、外側(ポイントマークと反対側)へ折ります。

❗ ポイントマークの真上を押さえて、反対側に折るようにしてください。折った部分で手指を傷つけないように注意してください。

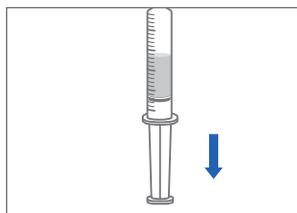
自己注射の手順③：薬剤の調整



針キャップ先端と注射器を持ちながら、真っすぐに引っ張り、針キャップを外します。

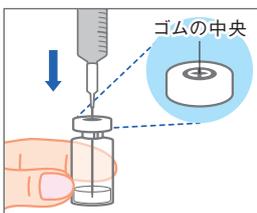


アンプルを斜めにし、針の先端をアンプルの底に付けて、中身(溶解液)を注射器に吸い取ります。

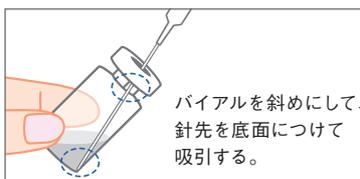


溶解液を吸い取った注射器の針を上に向けて、溶解液と同量以上の空気を吸い込みます。

❗ 針キャップを外した後は、針先が物に触れないように注意してください。



バイアルのゴムの中央に、上から真っすぐに針を刺して溶解液と空気を注入します。注入後、注射針を抜かずバイアルを回して薬剤を溶かします(バイアルは上下に振らずに回し、溶解液にすべて溶けているか確認してください)。



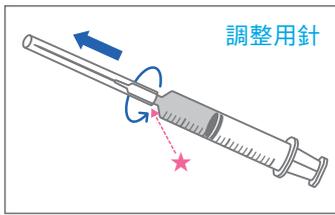
バイアルを斜めにして、針先を底面につけて吸引する。



吸引後、針を真っすぐに抜く。

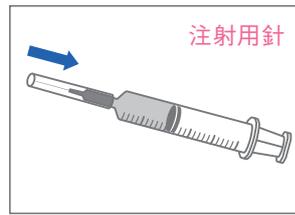
バイアルを傾け、注射器の内筒を押ししたまま針先を底に、針穴を側面に付けた後、内筒を押し指を離して溶解した薬液を吸引します。
*バイアルの中にある液は、吸い取り残しがないようにご注意ください。吸引後は、バイアルから針を真っすぐに抜くようにしてください。

自己注射の手順④：針の交換



調整用針

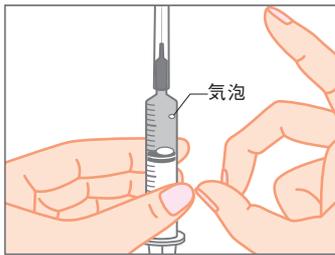
針キャップを付けて、ねじりながら調整用針を外します。外すときに内筒を押さないように注意してください。注射器から針を外す際や装着する際、両方の接続部分(★印)に触れないように注意してください。



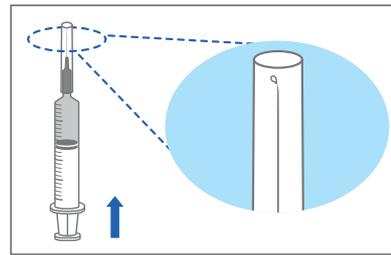
注射用針

注射用針を袋から取り出し、針キャップを持って真すぐに装着します。

自己注射の手順⑤：注射器内の空気を抜く



注射器の針を上に向けて、軽く指先ではじいて気泡を注射器の上まで移動させ、内筒を引いて空気を集めます。

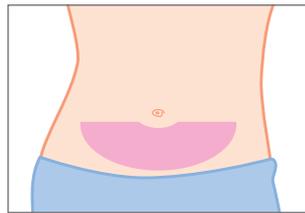


針先に液が1~2滴出るまで内筒を押し上げ、空気が抜けたことを確認します。

自己注射の手順⑥：注射をする

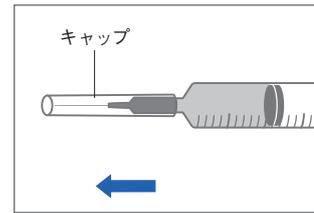


注射部位の周り5cm程度をアルコール綿で拭いて消毒します。

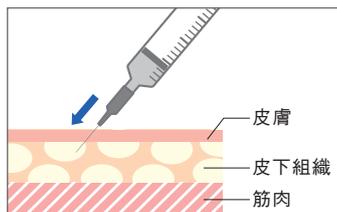
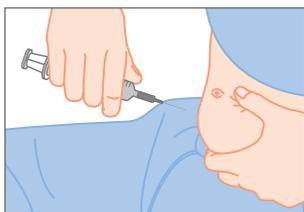


腹部(ピンクで示した範囲)に注射します。

! 注射部位は毎日変えましょう。



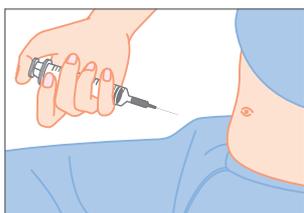
針キャップの先端と注射器を持ちながら、真すぐに引っ張ってキャップを外します。



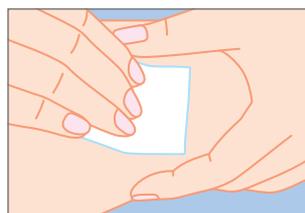
注射部位の皮膚を親指と人差し指でつまみ、つまんだ箇所に斜めに針を刺します。針を刺した後、内筒を押して、薬液を注射します。

※ 針を刺す角度や深さは、各医療機関から説明を受けてください。

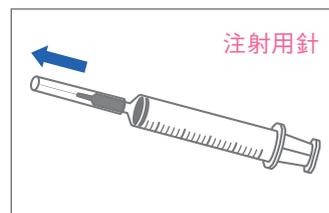
! 注射部位の皮膚は十分につまみあげて、皮下組織に針を刺すようにします。



注射が終わったら親指を押したまま、真すぐに針を抜きます。



注射部位をアルコール綿で押さえます。注射部位に絆創膏を貼ります。



注射用針

注射用針に針キャップを付けて、注射器から外し、針は廃棄用容器等に廃棄します。針と注射器、アンプル、バイアルの廃棄方法については各医療機関にご確認ください。

HMG注射用「フェリング」は、卵巣内の卵子の発育を促す薬剤です

HMG注射用「フェリング」は、ヒト下垂体性腺刺激ホルモン (hMG) 製剤で、卵胞刺激ホルモン (FSH) と黄体形成ホルモン (LH) を含む薬剤で、主治医から指示があった量を**1日1回注射**します。

HMG注射用「フェリング」の副作用：卵巣過剰刺激症候群 (OHSS)

薬剤によって予想以上に多くの卵子 (卵胞) が発育し、卵巣が過剰に刺激されると、卵巣がふくれ上がってお腹や胸に水がたまるなどの症状が起こることがあります。これを**卵巣過剰刺激症候群 (OHSS)**と呼び、注意が必要な副作用です。

OHSSの主な初期症状



下腹部が
とても痛い(骨盤痛)



吐き気がする、吐いてしまう



急に体重が増えた



下腹部が張る、不快な感じがする



おしっここの量が減った
ウエストがきつくなる

このような症状がみられた場合には、薬剤の投与を中断し、直ちに主治医・薬剤師に連絡してください。

HMG注射用「フェリング」の**その他の副作用**として、下記のようなものがあります。

赤み、腫れ、ほてり、かゆみ、頭痛、吐き気

この他にも、使用していて何か体調がおかしいなど気になることがあれば、**主治医・薬剤師**にご相談ください。

医療機関名

フェリング・ファーマ くすり相談室

本剤に関するお問い合わせを承ります。

 **0120-093-168***  **03-3596-1109****

受付時間：9:00～17:30 (土・日・祝日・弊社休日を除く)

*通話料は無料です。携帯電話、PHSからでもご利用いただけます。なお、IP電話からはフリーダイヤルをご利用できない場合があります。

**フリーダイヤルでの接続ができない場合にご利用ください。なお、通話料は自己負担となります。